

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520912

研究課題名(和文) イギリス史における議会制統治モデルの限界

研究課題名(英文) Parliament, Constituency and Local Interests in 16th - 19th century Britain

研究代表者

青木 康 (Aoki, Yasushi)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：10121451

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：イギリス近世・近代史は、国内各地の利害を代表する議員、特に州共同体における地主貴族出身議員が集まる議会が王権と対抗しつつ国政の主導権を獲得(=議会主権の国制を確立)していく過程として理解されてきた。この議会制統治のモデルに立つイギリス史理解は、議会制民主政治の母国イギリスに加え議会制度を導入した日本他多数の国の歴史学界において通説的地位を認められている。しかし、この通説史的理解には理論、実証の両面から疑問が提示されている。

本研究はイギリス議会史に関する実証研究蓄積から、近世・近代イギリス史の通説的理解を批判的に再検討し、論集として成果を出版し、イギリス近世・近代史像をめぐる議論に貢献する。

研究成果の概要(英文)：A historical model has been widely known that the British parliament consisting of landed gentlemen who represented local(particularly county) communities gradually achieved the sovereign power against the crown in early modern and modern ages. That modern British history is a story of the developing and triumphing parliament is a historical orthodoxy in not only Britain, a pioneer nation establishing parliamentary government, but also in lots of nations now accepting the parliamentary system. The model, however, has been recently challenged by theoretical and empirical studies of British early modern and modern history. This research project critically reexamines the model in great details. It is expected to contribute to a historical debate on the role of the parliament, through publishing an academic book on British parliamentary history.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：近世近代イギリス史 議会制統治 地域利害 議会代表

1. 研究開始当初の背景

(1) 一般に、国内各地域の利害を代表する議員が集まり諸利害を調整する場である議会が国政を主導するという議会制統治は、確かに中央と地域社会の間の関係の安定にとり不可欠のものと言えるが、議会の存在により統治上の困難という問題が(特に特殊な利害を有する、首都から遠隔の地域の場合は)無条件で解消されてしまうというものではない。この問題の歴史的事実の解明にむけての作業は多面的に行う必要がある。すなわち、議会制統治発祥の国イギリスにおいて、その歴史にそくして議会制統治モデルの限界を示し、その上で議会制統治の意味をあらためて考察することである。

(2) 19世紀末に誕生したイギリスの近代歴史学においては、議会の数世紀にわたる発展過程を定向進化論的にたどり、その重要性を強調する国制史が中心的位置をしめたため、議会制統治の確立が歴史の進歩と等値される傾向が見られた。20世紀半ばにはいわゆる修正主義史学の台頭で、このようなナイーブな見方は克服されたが、20世紀末以降、イギリス史の多様性が強調されるようになるなかで、ブルーワラ国家に注目する歴史家が、議会のもつ利害調整・国民統合の機能を重要な研究対象としてとりあげ、議会制統治にかかわる諸問題があらためて関心を集めるようになってきている。

2. 研究の目的

(1) イギリス史における議会制統治モデルの実効性が、17~19世紀というイギリス議会制統治の確立期を通して実証的に検討される過程で、従来軽視されてきた鉱業、海事を含む地域利害の多様性、全国的に力を持つ商業利益集団に掛る利害調整の困難さ、ケルト辺境での地方統治の脆弱性などの具体的事例を、議会制統治モデルの限界を示す重要な論点として実証的に明らかにする。

(2) イギリス政治史の上で特殊な政治性を保ってきた南西部地域の分析に焦点があてられる。こうした実証研究により、近世・近代の議会制統治が国家統合と不可分であるかのように論ずるモデルの限界を示した上で、あらためて議会制統治論の可能性を提示する。

3. 研究の方法

上の目的にそって、以下の3つの観点から複数の実証的研究を進め、研究会を通して問題意識を共有しつつ、議会制統治モデルを多角的に検証する。

(1) 下院の議席配分と地域代表

議会(下院)の議席は地域ごとに配分されているが、議席配分は地域の代表機能と直結するものであろうか。アメリカ独立革命時に「代表なくして課税なし」のスローガンがきわめて大きな政治的影響力をもったように、議席配分には象徴的な意味合いも大きい。ひるがえって、近世前半(16~17世紀)では、王権による都市選挙区の創設=議席配分が議会(下院)の規模を拡大していったが、そこには、王権と議会の相互補完的な機能もうかがわれる。本研究では、具体的には、18世紀に南西部コーンウォールとスコットランドにほぼ同数の議席が配分されていたが、その機能には違いがあったのではないかといった問題意識から実証的な検討をおこなう。

(2) 商人等の非地主議員と議会：中央=地域関係の実像

近世・近代の議会は、大土地所有を背景にした地域名望家が議員の多数をしめていたが、近年、商人などの非地主議員の重要性が注目されるようになった。このような動向を踏まえて、本課題においては、非地主議員、具体的には商人層の議会とのかかわりを具体的に解明し、地元の大地主が地域代表として中央に出ていくといった議会の介した中央=地域関係の過度に単純化された歴史像をより精緻なものに修正して、実態に近づける努力がなされる。

(3) 地域利害に関する議会(下院)外のチャンネル

近世・近代においては、特定の利益集団が、地域選出の(下院)議員という「表」のチャンネル以外に、その利害を中央に伝える別のチャンネルを有していた。しかし、この点の検討は、イギリス本国の学界でも立ち遅れていると言わざるをえず、この「研究史上の空白」をうめるため、海事関係者や鉱山関係者などが議会に持つ表のチャンネルと、それとは異なるチャンネルの在り方についても、ここで具体的、実証的な検討がなされる。

4. 研究成果

(1) 研究会開催

本課題採択年度の夏季以降、採択期間中毎年度夏季、および年度末春季に研究会を開催した。それぞれの実証研究の中間報告的な発表を、10名の参加者(研究代表者、研究分担者、連携研究者、研究協力者)が行い、質疑応答から議論を深めた。

(2) 海外史料調査・収集

研究会での議論を参考にしつつ、各人が必要に応じてイギリスでの史料収集を実施した。

(3) 論集の編集

これらの実証研究成果を11本集め、2014年度に公刊準備中の論集『議会制統治モデルの幻想』を編集した。

同書を構成する11の章は、科学研究費助

成事業に応募した時からこの研究プロジェクトの柱として設定していた「1 下院の議席配分と地域代表」、「2 商人等の非地主議員と議会」、「3 地域利害に関する下院以外のチャンネル」という3つの問題群に分けて、3部構成で配置されている。

上記研究会で報告と討論を繰り返すなかで、取り上げるべき具体的話題が徐々にはっきりと見えるようになってきて、公刊する書籍の章別構成においては、より内容にそくして、「1 下院の議席配分と地域代表」が「第一部 代表制議会」(さらに第一部を二分して、「A 議席配分と地域代表」と「B 議員選出の実態」とした)に、「2 商人等の非地主議員と議会」が「第二部 海洋帝国の議会」に、そして「3 地域利害に関する下院以外のチャンネル」が「第三部 議会制統治の外縁部」になった。しかし、大枠の問題意識はプロジェクトが立ち上がった時点から変わっていない。

これら11の章は、それぞれがイギリス近世史、あるいは近代史にかかわる詳細で実証的な個別研究論文であるが、全体として、『議会制統治モデルの幻想』のタイトルのとおり、イギリス近世・近代史における議会制統治の順調な発展という常識化した図式の危うさを明らかにすることになる。

より具体的には「第一部 代表制議会」の諸論文が問題にするのは、下院の議席が配分され、議員がある地域から中央の議会に送られても、議員がその地域社会の代表としては必ずしも働かない(Aの論点)そもそも選挙で議員が地域社会を代表する者としてすんなりと決まるわけではない(Bの論点)という点である。第二部の「海洋帝国の議会」というタイトルは、一見すると、もともとの研究プロジェクトの第2の柱「商人等の非地主議員と議会」とかなり違っているように見えるかもしれないが、問題意識は一貫している。

少なくとも近世から近代の前半まで(15世紀末から19世紀前半まで)の時期については、「議会制統治モデルの幻想」は、地域社会の「生まれながらの支配者」としての地主貴族の政治的重要性に対する高い評価と裏腹な関係にあったのであり、そのモデルを疑うとすれば、地主出身議員の働きにも疑問符をつけざるをえなくなる。近世・近代のイギリスでその重要性を高めていった商業利害、製造業利害、植民地利害などの、あえて言えば個別的な利害は、素人政治家である地主出身議員だけでは十分に担うことができず、より直接的にそれを担ったであろう非地主議員を検討したいというのが、第2の柱が言っていたところであり、研究プロジェクトが進む過程で、近世・近代のイギリスが海洋帝国として大きく発展したという歴史的な現実を反映して、具体的には植民地を含む海外にかかわる諸利害がどのように議会に代表されていたかが複数のメンバーにより取

り上げられて検討されることになった。その成果が、「第二部 海洋帝国の議会」としてまとめられるものになったわけである。

最後の「第三部 議会制統治の外縁部」は、プロジェクトの第3の柱「地域利害に関する下院以外のチャンネル」をほぼそのまま受けたもので、議会=下院による統制が徐々に、しかも間接的にしか及ばなかった2つの利害、コーンウォール公領と、デヴォン・コーンウォール両州のスズ鉱業の問題を扱っている。

なお、本書の巻末には、近世イギリス西部の歴史の代表的研究者であるエクセタ大学のジョナサン・バリー教授による「コメント」(日本語訳は研究分担者水井万里子)をおさめることができた。本書の出発点となった、西部地域に重点をおいて議会制統治の問題を考えようという研究プロジェクトを構想し始めた時から、イギリスの歴史学界で近い問題関心をもって仕事をしていると思われる研究者との交流の可能性が模索されていたが、今回のバリー教授の「コメント」はそのひとつの結果である。バリー教授には、本書の基本的コンセプトをお伝えした上で、11本の論文のある程度詳しい英文レジュメ(一部については論文の英訳)を読んでいただき、論評を得た。

(4) 成果と課題

研究プロジェクト「イギリス史における議会制統治モデルの限界」の成果である本書の公刊により、「順調な議会制統治の発展というステレオタイプ化したイギリス史理解の図式を批判的に再検討」というプロジェクト当初の目的は、一定程度達成しえたものと考えている。また、課題に関わった10名の研究者が採択期間中に下記5のような実証研究を精力的に発表しており、本課題の成果の一部を構成している。

今後の課題として、批判的に再検討した結果、具体的、実証的に問題点が明らかになったものの、従来のものに替わるイギリス史理解を提示しうるところまではいたっていない。この課題は、本書を刊行して、従来理解の問題点をより多くの研究者と共有した後、新たに取り組んでいかなければならない。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

Yasushi Aoki, 'The Town Corporation and the Aristocracy: Parliamentary Elections in Bury St Edmunds 1754-1757', *Proceedings of the Suffolk Institute of Archaeology & History*, 43-1, 2014, pp.75-85. 査読有。

君塚直隆「エリザベス二世と戦後イギリス外交」『国際政治』173号、2013年、153-169頁、査読有。

仲丸英起「近世イングランド下院議員による選挙区移動様態の時系列的変遷」『西洋史学』248号、2013年、19-37頁、査読有。

薩摩真介「海、略奪、法 近世大西洋世界における私掠制度の発展と拡大」『歴史学研究』911号、2013年、168-178頁、査読有。

薩摩真介「儲かる戦争 ブリテンにおける海戦支持の言説と党派抗争 1701-1713」『歴史学研究』903号、2013年、29-47、50頁、査読有。

Shinsuke Satsuma, 'Politicians, Merchants, and Colonial Maritime War: The Political and Economic Background of the American Act of 1708', *Parliamentary History*, 32, 2013, pp.317-336, 査読有。

水井万里子「近世イギリスにおける鉱物資源と財政」『九州工業大学研究報告(人文・社会科学)』61号、2013年、pp.71-84、査読無。

Shin Matsuzono, "Attaque and Break Through a Phalanx of Corruption...the Court Party! The Scottish Representative Peers' Election and the Opposition, 1733-5: Three New Division Lists of the House of Lords of 1735", *Parliamentary History*, 31(3), 2012, pp.332-352. 査読有。

Shinsuke Satsuma, 'The South Sea Company and its Plan for a Naval Expedition in 1712', *Historical Research*, 85(229), 2012, pp.410-429. 査読有。

川分圭子「近代奴隷制廃止における奴隷所有者への損失補償 世界史的概観」『京都府立大学学術報告 人文』64号、2012年、pp.41-75、査読無。

川分圭子「英領西インド奴隷制廃止と利害関係者の賠償」『共生の空間 異文化の接触・交渉・共存をめぐる総合的研究 2011年度京都府立大学重点戦略研究費研究成果報告書(代表研究者岡本隆司)』2012年、pp.67-82、査読無。

薩摩真介「大西洋世界の中の財政軍事国家 ブリテン - ジャマイカにおける私掠奨励政策と水夫流出問題 1702 - 1713」『史観』167号、2012年、pp.61 - 79、査読有。

青木康「1750年代ベリ・セント・エドマンズ市の下院議員選挙 ベリの都市自治体をめぐる補論」史苑、第72巻第1号、2011年、pp.37-55、査読有。

川分圭子「奴隷貿易廃止期のイギリス議会と西インド利害関係者」『京都府立大学学術報告(人文)』63号、2011年、pp.57-110、査読無

〔学会発表〕(計4件)

薩摩真介「歴史の中の海域 海がつなぐ/隔てる世界」歴史学研究会総会・大会 合

同部会(2013年5月26日)、一橋大学(東京都)、招待講演。

川分圭子「過去と向き合う 1834年奴隷制廃止における賠償問題・歴史家」『西洋史読書会第80回大会(2012年11月3日)、京都大学(京都府)。

水井万里子「近世イギリスの鉱物資源政策 - ずっと銅をめぐる -」平成23年度九州史学会大会、(2011年12月11日)、九州大学(福岡県)

薩摩真介「『儲かる戦争?』 ブリテンによるスペイン領アメリカにおける海戦の経済的利点についての言説の分析 1701-1713」日本西洋史学会第61回大会、(2011年5月15日)、日本大学(東京都)。

〔図書〕(計7件)

君塚直隆『女王陛下のブルーリボン 英国勲章外交史』中央公論社、2014年、335頁。

Shinsuke Satsuma, *Britain and Colonial Maritime War in the Early Eighteenth Century: Silver, Seapower and the Atlantic*, Boydell & Brewer, 2013, pp.284.

金澤周作(共著)薩摩真介他17名『海のイギリス史 闘争と共生の世界史』昭和堂、2013年、(総284頁)。

川分圭子(共著)中野隆生・中島毅編『文献解説西洋近現代史1 近世ヨーロッパの拡大』南窓社、2012年、pp.84-95頁(総122頁)、2012年

君塚直隆『ベル・エポックの国際政治 - エドワード七世と古典外交の時代 -』中央公論新社、2012年、413頁。

君塚直隆: "ジョージ5世 - 大衆民主政治時代の君主" 日本経済新聞出版社、2011年、総237頁。

君塚直隆(共著)木畑洋一・秋田茂編『近代イギリスの歴史』ミネルヴァ書房、2011年、81-105頁(総371頁)。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青木 康 (AOKI, Yasushi)

立教大学・文学部・教授

研究者番号: 10121451

(2) 研究分担者

川分 圭子 (KAWAWAKE, Keiko)

京都府立大学・文学部・教授

研究者番号: 20259419

水井 万里子 (MIZUI, Mariko)

九州工業大学・大学院工学研究院・教授

研究者番号: 90336090

(3) 連携研究者

松園 伸 (MATSUZONO, Shin)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号: 60239019

君塚 直隆 (KIMIZUKA, Naotaka)
関東学院大学・文学部・教授
研究者番号：80331495

金澤 周作 (KANAZAWA, Shusaku)
京都大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：70337757

一柳 峻夫 (HITOTSUYANAGI, Takao)
帝京平成大学、帝京平成大学現代ライフ学部
講師
研究者番号：20536396

(4)研究協力者(海外)
Jonathan Barry
Professor, College of Humanities,
University of Exeter